

誰もが輝ける保育を

学倉敷で開幕 将来へ議論深める

「日本保育学会 第70回大会」が20日、倉敷市松島、川崎医療福祉大をメイン会場に2日間の日程で始まった。「あらゆる子どもに保育を」をテーマに、全国の研究者、専門職

らが幼児教育や保育の歴史を振り返り、将来へ向けた議論を深める。

この日は開会式の

後、元国立特別支援教育総合研究所理事長で、聖徳大の小田豊教授が「幼児教育と特別支援教育の狭間の中を考える」と題して基調講演した。

小田教授は幼児教育と特別支援教育について「どちらも原点には



幼稚教育や保育分野の専門家らが参加して開幕した日本保育学会の第70回大会

一人一人が違うことが平等という考え方がある。教育とはできるか、できないかではなく、誰もが生き生きと輝けるかが問われるべきだ」と述べた。医療保

育や病児保育といった分野の重要性も指摘し、「法整備を進める必要がある」と提言した。最終日の21日は幼稚園・保育所関連の要領の改定を踏まえたシンポジウムなどが予定され、保育の歴史や展望について考える。主催者は2日間で延べ8千人の参加を見込んでいた。(伊丹友香)